

【題】

在住外国人とともに、
外国人の視点を取り入れた観光マップを作り、
外国人観光客を熱田区へ呼び込もう！

取り上げた地域	
熱田区	○
瀬戸市	

提出者	
学部	経済学部
基礎セミナー 担当教員	山下匡将先生
学籍番号	18E1094
氏名	高木雅成

①アイデアのイメージ

★名古屋市内の外国人観光客受入の課題★
日本語版の単純翻訳ではない、外国人目線のパンフレットがない

参考：2013年国土交通省中部運輸局「中部地方における訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入戦略拠点整備事業」

受入の対象となる外国人観光客とは
名古屋市には、年間訪日者数の10.1%（推定：87万人）が訪れている。ビジネスなど目的は様々であるが、名古屋市を訪れていることが対象の前提となる。

参考：2011年JNTO「JNTO 訪日外客訪問地調査2010 結果概要」「図表6 都市・観光地別 訪問率」

その外国人が、ビジネスなどの本来の訪日目的以外で名古屋市内を出歩くことがある。目的以外に出歩くこと＝観光と捉えることもでき、名古屋市を訪れている外国人観光客となり得る。そして、本マップを手にするすることで、熱田区へ足を運ぶきっかけを作り、外国人観光客を熱田区へ呼び込む。

外国人目線を取り入れるため、名古屋市内の在住外国人の方々と協力し、外国人が感じる熱田区の魅力をリサーチ。また、国人観光客の訪日への期待として、年間訪日者数の62.5%が食事と答え、45.8%が歴史的・伝統的な景観、旧跡と答えている。熱田区には、いわゆる「なごや飯」と呼ばれるひつまぶしで有名な蓬萊軒などの食事スポットや、熱田神宮や七里の清しをはじめとする歴史的・伝統的な景観、旧跡が存在している。そのような情報を、外国人目線で本当に必要な情報なのかを精査し、名古屋市を訪れた外国人が、熱田区に足を延ばしてみたいくなる情報をマップに落とし届けてみてはどうか。

参考：2011年JNTO「JNTO 訪日外客訪問地調査2010 結果概要」「観光客が訪日前に期待したこと」



主要交通機関・施設に設置
(名古屋駅・金山駅・セントレア・観光案内所・名古屋国際センター・ホテルなど)

多言語で作成
(日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語など)

名古屋市内の在住外国人者数
中国：22,582人 韓国・朝鮮：18,744人
フィリピン：7,140人 フラジル：3,977人
その他：11,912人 合計：64,355人
参考：2012年要知果「外国人住民数 地域振興部国際課多文化共生推進室調べ」

②アイデアの特徴・メリットなど

- ①名古屋市内の在住外国人の力を借りることにより、受入の課題である外国人目線の視点を取り入れることができる。外国人が魅力だと感じる情報を入手できることにより、既存のパンフレットにはない、外国人観光客に寄り添った新たなツールを生み出すことができる。また、外国人観光客だけではなく、日本人観光客もマップを利用することで、普段とは違う外国人目線での観光を楽しむことができる。
- ②マップ作りを通し在住外国人と関わることで、異文化との地域での共生を認識・再認識でき、地域での多文化共生の取組が促進する。
- ③熱田区を皮切りに、名古屋市全16区でも同様のマップが作成できれば、名古屋市全体の外国人観光客数の増加が見込まれる。